
空中ブランコ

ダレン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空中ブランコ

【Nコード】

N9351A

【作者名】

ダレン

【あらすじ】

今まで平凡な生活を送っていた瑠維^{るい}。しかし、そんな瑠維も初めて・・・。ブランコはゆれはじめた??かな

1 漕ぎめ* 目線（前書き）

初めてですが、読んでいただけると嬉しいデス・・・。よろしくお
願いします

1 漕ぎめ*目線

「…………えっと…………あのさあ…………俺と…………付き合ってください!」
「…………いいっ!?いい…………いい…………今この人なんていったの?いきなりだよ、これは。」

あつ!…!

「まさか、もしかして男子達の間でゲームしてて、慎^{しん}は負けたから、×ゲーム!…っていうアレ?」
一応聞いておいた。だって、もし、あたしの予想通りだったらかなり恥かくことになるし。こんな風に告白されるのは14年平凡に生きてきたなかで初めてだ。

「本当に、本当に×ゲームとかで、言っていない?」
どうにもならない笑いをしてしまう。すると慎は慌てて、さっきまで恥ずかしさで落としていた視線をこちらに向けなおした。視線はまっすぐにこちらを見据えていた。

「違う。そんなんじゃない。」

……………本当なんだ…。

こんな、けっこう回りからモテてしまう人が、あたしのことを…………。そもそも、慎との出会いはクラスが一緒になったことから始まった。毎年恒例のクラス替えがあつて、中学最後の年くらいあたしが一番信頼してる彩^{あみ}未と同じクラスになりたかつた…。って、少しだけしょげてたとき。

慎と目があつた。
あたしの席より3mくらい離れた斜

め前の席。

それから、一日に何回も何回も、言葉
なしの会話をいっぱいしたよね。

嬉しかった。 なかなかクラスに溶け込めない、こん
なあたしを見ていてくれて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9351a/>

空中ブランコ

2010年10月31日03時53分発行